
旅人の話

雪芳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

旅人の話

【Nコード】

N2750J

【作者名】

雪芳

【あらすじ】

ある日、旅人がぼくの家をたずねて。表紙絵：早村友裕さま

(前書)

v i 4 4 6 0 | 7 6 6 ^

ある日、ぼくの家に来た人がやってきました。

寒くもなく、暑くもない季節。いつものとおりぼくは、夜に向けて夕御飯の支度をしていて、小麦で牛乳を溶いたり、その中に砂糖をほんの少し混ぜてみたりしていたのです。そんな時に、旅人はきました。

コンコンコン。

最初は風の音だと思いました。なぜなら、ぼくの家を訪ねる人はあまりいないからです。

どうして、ぼくの家を訪ねる人があまりいないのかと言いますと、ぼくの家は砂漠の端にありまして、砂漠の端には、ぼく以外の人間が住んでいないからです。

そんなわけですから、最初は風の音だと思ったのです。

コンコンコン。

でも、あまりに長く続きます。

ぼくは鍋を火にかけるのを一度やめると、音の正体を探しました。音がなんなのか、すぐに分かりました。

それは、玄関の扉がノックされる音でした。

音を確認してから、ぼくは扉に向かいました。先程もお伝えしましたが、ぼくの家を訪ねる人は殆んどいません。

ですから、とても緊張しながら扉に近付きました。

もしかしたら綺麗なお嬢さんかもしれませんが、年老いた農民かもしれませんし、もしかしたら砂漠からやってきた盗賊かもしれませんし、あるいは、やはり風かもしれません。

ぼくは色々な緊張を抱えながら、ゆっくり、実にゆっくりと、扉を開けました。

そしたら、旅人だったわけですよ。

「死ぬかと思いました」

旅人は作ったばかりの温かいグラタンを、もそもそと食べながら言いました。

「歩いていたら砂漠が目の前に広がっていたんです。とてもとても迷ってしまいそんな広い砂漠でしたから、渡るのを迷いました。でも、引き返す理由もなかったので渡ったのです」

旅人は、グラタンのこげをすくいとりながら続けました。

「そうしたら、砂漠の中で五回も太陽が登り、水も食糧も尽きてしまいました。それから三回も太陽が登り、いよいよ死んでしまうのかしらと思っていたところに、この家を見つけたのです」

旅人は、グラタンのこげをすくいとりながら更に続けました。

「倒れてしまいたいのを我慢して頑張って歩きましたら、砂漠も抜けることができました。そうして私は、あなたの家をノックしたのです」

旅人はグラタンを食べ終わってしまいました。そして、両の手を鼻の前で合わせました。

「あなたとあなたの家は、私の命の恩人と恩家ですね」

そんなことを言われたのは生まれてはじめてでしたから、ぼくはなんだか恥ずかしくなってしまうました。

「ぼくはただ、ここにいただけです。ぼくの家もまた、ここにあってただけです」

恥ずかしさをごまかしたくて、こう返しますと、旅人は再び手を合わせました。

「ですがやはり、私はいのち拾いましたのです。これはとても素晴らしいことで、とてもとても素敵なことです。ですから私は、なにか恩返しをしなければなりませんね」

そういうと旅人はぼくに、恩返しについて尋ねはじめました。

「あなたは農民ですか」

「はい、そうです」

「あなたは一人ぐらしですか」

「はい、そうです」

「では、あなたの代わりに、私のいのち分、あなたの仕事をしまし
よう」

「といたしますと?」

「畑を耕しましょう」

「ぼくの畑はあなたのいのち分の大きさではありません。とてもとても小さな畑です」

「掃除をしましょう」

「ぼくの家はあなたのいのち分の大きさではありません。とてもとても小さな家です」

「羊の世話をしましょう」

「ぼくの羊はあなたのいのち分の大きさではありません。とてもとても小さな羊です」

旅人はついに、がっくりと頭を下げました。そしてそのまま、悲しそうに頭をかかえました。

「困りましたね。わたしはどうやって恩返しをしましょうか」

困り果てる旅人を見て、ぼくはこう答えました。

「では、あなたのいのち分、お話をきかせてください」

「といますと?」

「あなたのいのちが絶えそうになった、旅の話をしてください。ぼくは生まれてこのかた、旅をしたことがないので」

ぼくがそういいますと、旅人は太陽のような笑みでこくりとうなずきました。

「分かりました。わたしのいのち分、旅の話をしましょう」

旅人はそれから、旅人のいのち分、旅の話をしてくれました。それはそれは、素晴らしい旅の話でした。

旅だった日の、眠れない夜のこと。

魚をとっていたら、となりに竜が座っていたこと。

星のおちる街であった、歌姫のこと。

旅人は更に、旅人のいのち分、旅の話をしてくれました。

荒れた海で、大きなタコと戦ったこと。

世界の真ん中で、歌をうたったこと。

そして、大きな砂漠で、七日間も迷ったこと。

旅人のいのち分の旅の話。

それは、とても勇敢な、とても情熱のある話でした。

ぼくは話を聞き終ると、その素晴らしさから、思わず拍手をしました。

「とてもすごい話をききました。あなたのいのちはとても勇気があり、とても決断力があり、とても興奮のあるものですね」

旅人は顔を真っ赤にさせました。そしてこう言いました。

「私はただ、旅に出ただけです。私のいのちもまた、旅にでただけなのです」

「でもやはり、ぼくは感激しました。これはとても素晴らしいことで、とてもとても素敵なことです。ですからぼくは、あなたをとても強いと思います」

ぼくの言葉に旅人は大きく目をあけると、先程のように頭を下げてしまいました。

「どうしました?」

「いいえ、なんでもありません。ただ私は、あなたの言葉のとおり人間ではないのです」

「と、いいいますと?」

「私は、強くないのです」

旅人の言葉の意味が、ぼくには分かりませんでした。だってそうでしょう。

旅人は、自由と冒険を求めて故郷を去りました。

旅人は、となりに竜が座っけていても、かまわず魚をとりました。

旅人は、歌姫を、悪い盗賊から守りました。

旅人は、大きなタコをうちとりました。

旅人は、歌をうたい、また旅にでました。

そして旅人は、大きな砂漠をこえて、ぼくの家にきました。

そんな旅人が強くないなんて、信じられません。ぼくは思わず、問いかけました。

「どうして、あなたが強くないのですか？」

旅人は微笑むと、こう答えました。

翌朝、ぼくはいつもどおり、羊に餌をやりました。羊はとても小さいので、ぼくはすぐに餌をやり終りました。

旅人は昨晚、こんなことを言いました。

「わたしは、弱いのですよ」

「弱い？」

「ええ、弱いのです」

それから僕は、家の掃除をしました。家はとても小さいので、ぼくはすぐに家を掃除し終りました。

旅人は昨晚、こんなことを言いました。

「なぜ、弱いのですか？ あなたは旅人で、強いはずです」

「そうです、旅人です。だから弱いのです」

「よく分かりません。ぼくには旅はできません。あなたはぼくより強いはずです」

それからぼくは畑を耕すために、くわをもちました。そして家の横の畑にいくと、畑を耕しはじめました。

旅人は昨晚、こんなことを言いました。

「ちがうのです。人は弱いから、旅に出るのです」

「弱いから、旅に出る？」

「そうです。強い人は旅に出ません。なぜなら、旅立つ必要がないからです」

そばには、旅人が渡った砂漠が広がり、その反対側には平原が広がっています。

旅人は昨晚、こんなことを言いました。

「わたしは、ずっと畑を耕し続けることができません。わたしは、ずっと家を掃除し続けることができません。わたしは、ずっと羊の世話をし続けることができません。だからわたしは、旅に出たのです」

そして旅人は、立ち上がりました。

「守るべきものを守れないから、旅立つのです。そして少しずつ、強くならなければなりません。旅立つなんて、弱い人がすることです」

そして旅人は、荷物を持ちました。

「そしてわたしはまだ、ひとつの場所にとどまることが恐ろしい。」

なぜならわたしには、守る力がないからです」

そして旅人は、扉に手をかけました。

「おいしいグラタンでした。ありがとうございます」

そしてそのまま、旅人はまた旅に出ました。

ぼくは旅人が旅立った平原をみつめました。旅人はどこに向かうのか、ぼくは知りません。もうぼくには、旅人の背中も見えないのでした。

ある日、ぼくの家の旅人がやってきました。

寒くもなく、暑くもない季節。いつものとおりぼくは、この家にすんでいて、旅のない日々を送っていました。そんな時に、旅人はやってきました。

コンコンコン。

そしてぼくはそれを、風の音だと思ったのです。

(後書き)

“小説家になろう”に登録し、初めて書いた思い出深い話。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2750j/>

旅人の話

2011年1月26日09時20分発行